

漁業経済学会 短 信

【第60回大会の案内】

■ 開 催

場 所：東京海洋大学品川キャンパス 東京都港区港南4-5-7
事務局：工藤 貴史 (TEL&FAX 03-5463-0569 fishecono@gmail.com)
日 程：2013年5月24日～26日
5月24日 (金)：全国理事会
5月25日 (土)：一般報告・総会・懇親会
*東日本大震災関連の報告は午後に纏める予定
5月26日 (日)：シンポジウム

■ 大会参加費

大会参加費：2,000円
懇親会費：4,000円

■ 参加申込方法

事前申し込み制とする。第126号(4月末までに発送予定)に、振り込み用紙を同封しますので参加費、懇親会費を納入してください。当日受付もいたしますが、事務局の負担を軽減したいので、会員の皆様には事前申し込みへのご協力を宜しくお願いいたします。

■ 一般報告の受付

タイトル受付締切日：2013年4月14日(日) 必着(締め切り厳守)
報告要旨受付締切日：2013年4月29日(月) 必着(締め切り厳守)
提出先：東京海洋大学 工藤 貴史
〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7 東京海洋大学
TEL&FAX :03-5463-0569
E-mail :fishecono@gmai.com

提出方法：一般報告のタイトルおよび報告要旨は FAX や郵送でも構いませんが、できる限りメールで送付してください。

報告要旨の形式：1,600字以内。報告要旨には、タイトル、報告者の氏名と所属要旨を入れること。メールで提出する場合は、MS-Word、テキストファイル等で原稿を作成し、添付ファイルで提出すること。郵送で提出する場合は、CDまたはフロッピーディスクでファイルを提出するか、B5サイズ1枚にプリントアウトした用紙を提出すること。

■ 学会賞候補者の推薦

学会賞候補者の推薦を募集しています。候補対象者名と理由を記して事務局(工藤貴史)

までお送り下さい。お送り頂いたものは学会賞選考委員会に提出します。
委員長（代表理事）： 服部昭（2013年5月まで）
委員：山尾政博、加藤辰夫、加瀬和俊、伊藤康宏（2013年5月まで）
三輪千年、廣吉勝治（2014年5月まで）

【第60回大会シンポジウムテーマの案内】

『高齢漁業者の実像と十年後の漁村』（仮題）

コーディネーター 山下東子（明海大学）

65才以上のいわゆる年金漁業者は漁業就業者の34%（2008 漁業センサス）を占めている。これまで漁業労働の問題を論じる際には、青壮年漁業者数および新規参入者数の絶対的不足が問題として取り扱われることが多かった。対して高齢漁業者は漁業の担い手の残余とみなされ、高齢漁業者そのものの漁業生産力や産業に対する寄与、漁村社会における位置づけについては正面から議論され評価されてはこなかった。

しかし年金を受給しながらも引退せず漁業を継続する高齢漁業者はすでに漁業就業者の3分の1を占め、今後もその割合は上昇していくと考えられる。そこで今後の漁業や漁村を展望するうえで、高齢漁業者の実像を把握することが必要となってきた。

本シンポジウムでは、沿岸漁業を中心に高齢漁業者に焦点を当て、その実態を多角的に論じるとともに漁村の将来を展望する。具体的には、漁家のデモグラフィとその推移、漁業継続動機・廃業動機、加齢に伴う漁業種類の変遷と資源利用、漁業生産力と収入・家計運営、漁村社会への貢献度を科学的手法によって浮き彫りにする。この結果を、より高齢化が進展している農業と対比させることにより、漁業の現状を相対化する。

報告は以下の通りである。まずはコーディネーターがシンポジウムの課題を設定し、漁業者高齢化問題の原因と経済的評価を総括する。

第一報告（山内昌和氏：国立社会保障・人口問題研究所）は、漁業センサスのデータを利用し、人口学的な視点から漁業就業者の高齢化の進展とその背景について分析する。さらに、現在のトレンドが続くと仮定の下で将来の就業者数の推計結果を提示し、予想される見通しとその影響について議論したい。検討するのは主に日本全体の動向であり、可能な範囲で漁業の地域的な多様性にも言及できるような内容の報告にしたい。また、漁業以外の他産業との比較も重要であると考えているが、どこまで検討できるか現時点では未定である。

第二報告（大谷誠氏：水産大学校）は、主に自営漁業を営む高齢漁業者について、加齢に伴う漁業労働と生活環境の変化を把握する。とくに、①漁業における労働強度の低減のプロセスと②漁業所得の減少や年金受給開始に伴う所得構造の変化、③子や妻の動向に伴う家庭環境に着目したい。そして、どのような動機で漁業を廃業するのか、あるいはなぜ漁業を継続するのかといった高齢漁業者の行動論理とそのプロセスを明らかにしたい。また、統計上は消えてしまう漁業廃業後の生活状況にも接近してみたい。

第三報告（工藤貴史氏：東京海洋大学）は、今日の日本漁業における高齢漁業者の役割について検討することを目的に、高齢漁業者の漁業生産と就業内容の特徴を統計資料と事例調査から分析する。2008年漁業センサスにおいて「その他の釣り」、「その他の刺網」、「採貝・採藻」は、漁業就業者の50%以上が65才以上の高齢者で占められている。これらの「高齢者依存型漁業」の実態を漁村における長期継続調査によって明らかにし、今後を展望と課題について言及したい。

第四報告（加藤基樹氏：早稲田大学）は、同じ第一次産業でも農業ではすでに高齢化が顕著であるが、その高齢就業者の実態を、農業センサスをもとに明らかにすることで、漁

業のそれと対比させながら分析を行う。また、農業の継続動機・廃業動機については、中山間地域、都市的地域、北海道大規模農業地域など、農業地域を特徴ごとに分けて事例調査を行いその結果をもとに論じる。そこでは農業の後継者問題について、北海道における新たな形態について言及される予定である。

【「漁業経済研究」の投稿案内】

現在、漁業経済研究 57 巻 2 号に掲載する論文等を募集します。投稿締め切り日は 2013 年 1 月 20 日とします。

投稿資格はすべての会員にあります。沢山の投稿をお待ちしております。なお、編集スケジュールにつきましては 2010 年度から改めましたので留意して下さい。

1. 投稿規定

投稿規定は 2012 年 5 月 29 日改訂版のものとします。投稿を希望する場合、必ず「投稿規定」と「執筆要領」をよく読み、それに従って執筆してください。

以下の URL に記載されている投稿規定を参照してください。

<http://www.gyokei.sakura.ne.jp/contribution/contribution.htm>

特に、投稿区分については明記を忘れないでください。

投稿原稿が投稿規定、執筆要領に従っていない場合や投稿原稿の内容が漁業経済学会規則第 3 条に適さない場合、投稿を受け付けないこともあります。また、締め切り日を過ぎてから投稿した場合、その原稿の審査は次号の編集作業に回します。

2. 編集スケジュール

	発行号		備考
	1 号	2 号	
原稿投稿締め切り	7 月 20 日	1 月 20 日	受付日
編集委員会	7 月末	1 月末	
査読			
査読結果回収	8 月末	2 月末	
編集委員会	9 月初旬	3 月初旬	掲載可の場合、受領日
審査結果送付			
修正稿提出締め切り	10 月末	4 月末	
編集委員会	11 月初旬	5 月初旬	掲載可の場合、受領日
発行・送付	1 月中旬発行	6 月中旬発行	

3. 提出方法

投稿者は、編集委員会総務担当に、以下の要領で送付すること。

- ① 原稿の提出部数は、区分を問わず、3部(3部ともコピーで可)とする。
- ② 電子ファイルをCDなどに保存して送付するか、電子メールに添付ファイルとして送付すること。(ファイルサイズが大きい場合、図表ファイルをpdf化するなど工夫をしてください)
- ③ 「「漁業経済研究」投稿原稿送り状を同封すること。送り状の様式については「漁業経済研究」の最終ページに掲載しています。

編集委員会総務：

〒108-8477 東京都港区港南 4-5-7 東京海洋大学 濱田武士 研究室 宛

電子メールアドレス：bqx11300@kaiyodai.ac.jp (◎を@に変えて下さい)

【「書評」の投稿のお願い】

漁業経済研究 編集委員長 加瀬和俊

現在、漁業経済研究第 57 巻 2 号への投稿論文を上記のように募集しております。論文、研究ノート、実態分析などの投稿はもちろんのこと、「書評」の投稿も募集しております。改めてこのようなお願いするのは、これまで漁業経済関連の著作の書評が主だったのですが、漁業経済分野に限らず募集したく考えているからです。異分野の著作であっても、漁業経済学に提起する論点を導いているなら、漁業経済学の発展に資すると考えるからです。もちろん、投稿規定にあるように査読付きではありますが、積極的に掲載する方向で審査いたします。

【会費納入のお願い】

2012年度までの年会費の納入を宜しくお願いいたします。同封の払込取扱票にて納入していただきますようお願いいたします。なお、2012年度の年会費をすでに納入されている方、郵便口座からの自動引落としによって納入いただいている方には払込取扱票を同封していませんのでご了承ください。郵便口座からの自動引落としは2013年1月下旬を予定しています。ご不明な点がございましたら会計担当までご連絡ください。また、年会費の領収書が必要な方は、工藤まで電話かメールでご連絡下さい。

(工藤貴史 TEL:03-5463-0569 E-mail:kudot@kaiyodai.ac.jp©を@に変えて下さい)

【編集後記】

- ◎ 漁業経済学会は来年 60 周年を迎えます。前号の短信でお知らせしたように「60 周年の催しを考える会」が設置されました。まずは、学会に関連した資料を収集するという作業を行うことになっておりますので、こうした資料や情報をお持ちの方がいらっしゃいましたら事務局総務の工藤までご連絡ください。ご意見もお待ちしております。ご協力お願いします。
- ◎ 60 歳を迎える本学会にふさわしく(?)、第 60 回大会シンポジウムのテーマは「高齢漁業者の実像と十年後の漁村」となりました。漁村における就業・労働問題について本学会で取り上げるのは、ちょうど 20 年前の第 40 回大会の「漁村労働力の存在形態-過剰人口論の再検討-」以来になります(正確にいうと 2005 年に外国人就業について取り上げていますが)。第 40 回大会シンポの成果は漁業経済研究の第 38 巻第 1 号(1993 年)に所収されており、当日の熱い議論の様子も後記に記されています。是非ご一読いただき、来年のシンポジウムでも再び熱い議論が交わされることを期待しています。

(工藤 貴史)

学会短信 No. 125

2012.12.12

漁業経済学会事務局(総務:工藤 貴史)

〒108-8477 東京都港区港南4-5-7

東京海洋大学内

TEL & FAX 03-5463-0569

e-mail fishecono@gmail.com